

街道 166 協議会 山車再生プロジェクト



01. 山車再生プロジェクトとは…

200年もの昔に作られ、まつりを賑わせていた山車も、担い手の不足と少子化や高齢化の影響で30年もの間、眠ったままになっていました。今のこども達は、祭で「山車」を観たことがありません。

「ひとからひとに受け継がれてきた『想い』を江戸から令和へ」を合言葉に、仲間を募り、できる限りのことを自分たちから始めました。

眠ったままの「山車」を再生し、まちのこども達と曳きまわすプロジェクト、これが本プロジェクトです。

松阪三大祭のひとつ松阪祇園まつりにおいて、平生町の方々、また大江地区の方々を中心に、関わっていただいた皆様と令和の「山車」を曳き回します。(本年度は展示のみ)

「令和」の「山車」の完成へ向けて皆様のお力をお貸しください。

街道 166 協議会 山車再生プロジェクト

02. 街道 166 協議会とは…

人口 1,200 人、中心市街地から車で 30 分、見渡せば「山」と「川」、山間部の農村集落にある小さな田舎のお祭りで、二人の若者が出合ったことがキッカケです。

二人は、平成 26 年に地元の祭りから盛り上げようと、地域の若者たちに声をかけ、仲間を増やすことから始めました。地域の活性化やボランティア活動に汗を流しています。

当団体の名前は、大阪府羽曳野市から三重県松阪市を結ぶ国道 166 号線に由来し、「和歌山街道」と「伊勢本街道」が重複するルートであることから「街道 166 協議会」とネーミングしました。

03. 伝統文化を一新し令和へ

現在の山車本体や装飾品は、劣化が激しく曳きまわしには適しません。本プロジェクトの仲間や地域の方々、たくさんの人のお力をいただき、新たに生まれ変わります。幕類の装飾品については、伊藤潤一氏デザインの令和バージョンに変更されました。

© 三重県松阪市在住で、多くの国でアートを通じた文化交流をおこなっている「伊藤潤一氏」にプロデュースをお願いしました。



WEBSITE



Instagram



山車再生プロジェクト

04. デザインについて

山車再生プロジェクトの紋



松阪市の初代市章に使用されていた「鶴」をモチーフに制作しました。この「鶴」は、松阪市の礎を築いた蒲生氏郷公が幼名を鶴千代と名乗っていたことに由来します。

法被



前面



背面

今回のプロジェクトで復活する山車のキーカラーが、赤（朱）に決まったことから法被においても赤を採用しました。

また、デザインとして施されている柄は「羽車」を表現していて、江戸から受け継がれて来た想いと共に復活を遂げた山車が、たくさんの人の想いと噛み合い、これから先の時代にさらに命を繋いでいってほしいってほしいとの想いが込められています。

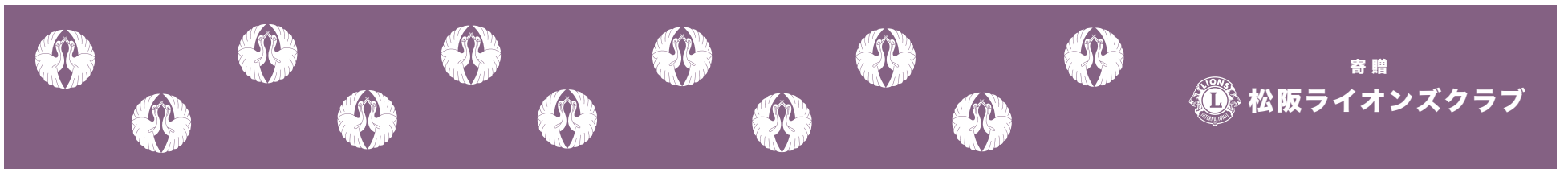
街道 166 協議会 山車再生プロジェクト

幕類 幕類の制作にあたっては、松阪ライオンズクラブ様にご支援をいただきました

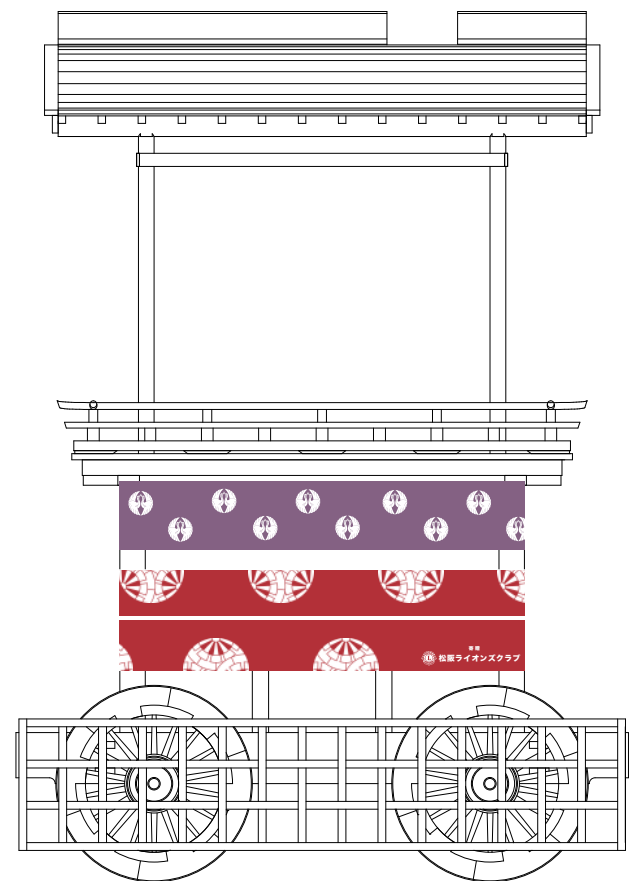
横幕 120×720cm（赤地に白抜き）



水引幕 45×866cm（紫染め＋金プリント）



緞帳幕 270×164cm（赤地に白抜き＋金欄生地縫い付け）



街道 166 協議会 山車再生プロジェクト

05. これまでの活動

長い道のりへの第一歩

平成 30 年某日、平生町自治会から大石観光協会へ、正式に譲渡が決まり、埃まみれの山車と対面を果たします。この後、山車はトラックに積み込まれ大石へと向かいました。



部材の確認

この頃は、時代が「平成」から「令和」に変わろうとは知る由もなく、猛暑に耐えながら、山車の部材や備品のチェックをおこなっていました。長い間、人の手のはいつていない山車は、錆や劣化が激しく、このままではお祭りでの曳きまわしすらできないことも分かり始めました。



4 月 1 日に元号が「令和」と決まり、令和元年 5 月 1 日
こどもたちと始める「山車再生プロジェクト」がスタート。

こどもたちと山車の水洗い

令和元年 5 月に、山車再生プロジェクトは始まりました。学校にも協力していただいて、こどもたちと山車の水洗いをしました。ほとんどの子供たちは、この作業の時に、初めて山車を見たそうです。



街道 166 協議会 山車再生プロジェクト

06. これまでの活動

山車の塗装

漆を塗る予算ありませんが「自分たちでできることから」をモットーに、塗装屋さんにご協力いただき、水洗いに続き、塗装作業が始まります。令和の「山車」のメインカラーは「朱」色になりました。

協力：(有) タケガワ塗装



山車の修繕

山車の修繕もボランティアです。大工さんは大活躍！
躯体の一部を除いて、ほとんどがボロボロです。屋根から手すりに至るまで修繕しました。

協力：勝田建築



山車の金具磨き

こちらも手作業。みんなで知恵を出し合って、山車の金具がピッカピカ！作業の終盤には、みんな慣れた手つきに。

この作業は令和二年になっても続けました。(足掛け 2 年以上 !!)

協力：(株) 佛英堂



地域を知ろう

「もくいち」と、実際に使用する車軸の材料が切り出された山を見学に行きました。

協力：マルゴ (株)



街道 166 協議会

山車再生プロジェクト

ご協力いただきました皆様

平生町自治会 様

大石地区住民自治協議会 様

大石観光協会 様

(一社) 松阪市観光協会 様

三社みこし世話人会 様

(株) 松阪街づくり公社 様

松阪ライオンズクラブ 様

伊藤潤一 様 (株式会社カブク)

(有) タケガワ塗装 様

株式会社 佛英堂 様

マルゴ株式会社 様

勝田建築 様

(有) 中野自動車 様

今井製材所 様

大江中学校の生徒の皆様

南小学校の生徒の皆様

その他 多くの方々のご協力をいただいております